



次世代スギ「サガンスギ」の
苗木づくりが、ここから始まる
愛情と期待を込めて
一本一本、丁寧に母樹を植栽

サガンスギの苗木生産拡大に向けて採穂園を拡大造成（林業試験場内にて）

《林政だより》

- ・「さかの森林・林業ビジョン 2023」を策定しました……………2
- ・森林資源の循環利用を加速！
～次代へつなぐ森林再生事業～……………3
- ・令和5年度治山林道コンクールを開催……………4～5
- ・「木造・木質化相談窓口」が開設！……………6
- 《林業ひろば》
- ・レイクサイド北山リニューアルオープン！……………7

《普及だより》

- ・業務の効率化を目指した森林内の遠隔臨場の実証……………8
- ・Ottelaさんと一緒に森林教室をしました……………9
- ・サガンスギの採穂園を拡大造成……………10
- 《林試だより》
- ・SAGAものスゴフェスタ9に出展……………11
- 《裏面》
- ・表彰受賞者のお知らせ、行事・イベント情報……………12



はじめに

県では、森林・林業施策の基本方向を示すため平成 16 年に「新しい佐賀の森林づくりビジョン」を策定し、平成 23 年に一部見直しを行いました。

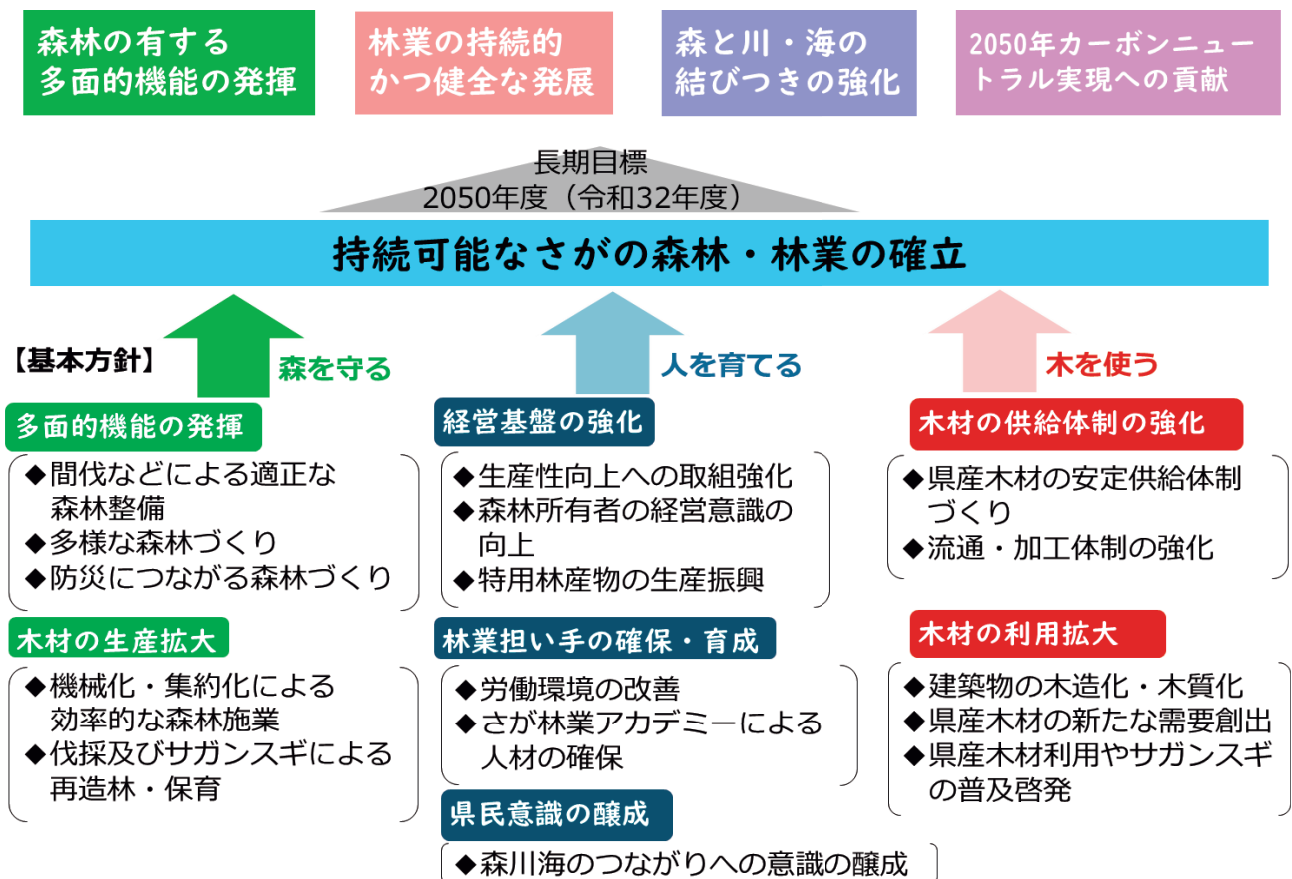
一部見直しから 10 年以上が経過したところですが、この間、県の森林・林業を取り巻く情勢は大きく変化しました。

そこで、情勢の変化に的確に対応するとともに、県民の期待及び佐賀の森林・林業の特性を踏まえて、新たな「さかの森林・林業ビジョン 2023」を策定しましたのでお知らせします。

ビジョン策定のポイント

- ◆「森を守る」、「人を育てる」、「木を使う」の 3 つの柱で「さかの林業再生プロジェクト」等を展開し、「持続可能なさかの森林・林業の確立」を目指す。
- ◆県が約半世紀をかけ開発した、「成長が早く」、「強度があり」、「花粉が少ない」、三拍子そろった「サガンスギ」を森林・林業再生の切り札として、苗木の生産や植栽を推進。
- ◆防災などの多面的機能の発揮、木材の生産拡大、林業担い手の確保・育成、木材の利用拡大等、佐賀県の森林・林業の課題に対応。
- ◆計画期間は令和 5 年度（2023 年度）から令和 32 年度（2050 年度）までの 28 年間。
令和 14 年度（2032 年度）に中間目標、令和 32 年度（2050 年度）に最終目標を設定。

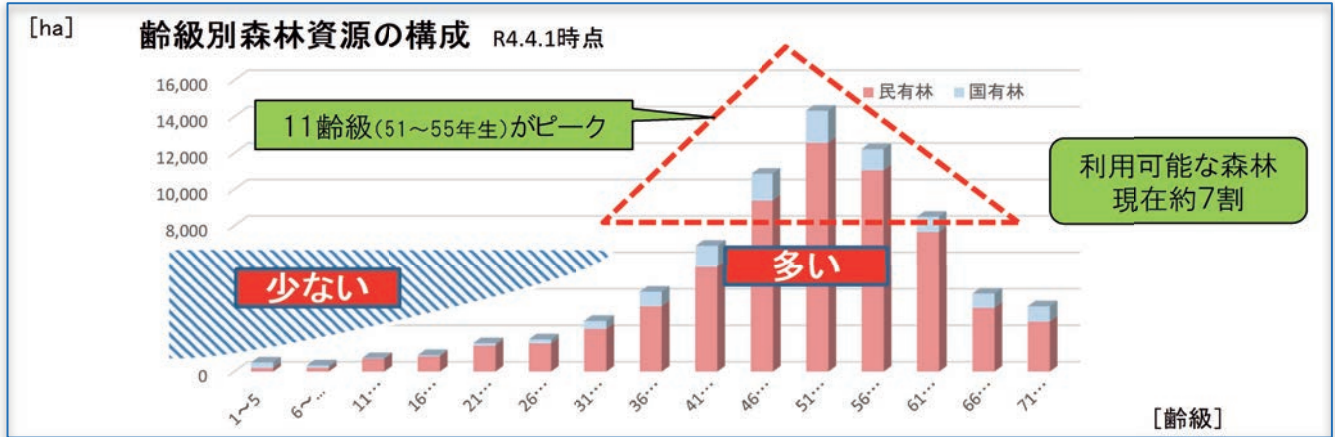
ビジョンの目指す姿と基本方針





はじめに

本県の森林資源は成熟し、利用可能な森林（46年生以上）が約7割ありますが、反面、若い木が大変少ない状況となっています。



また国では、スギ花粉症について、その患者数が国民の約4割と推計されるなど社会的な問題となっており、令和5年5月30日に花粉症に関する関係閣僚会議において「発生源対策」、「飛散対策」、「発症・曝露対策」を3本柱とする「花粉症対策の全体像」が取りまとめられ、令和6年の飛散期から今後10年を視野に入れた施策も含め、解決するための道筋が示されました。

このうち発生源対策では、①スギ人工林の伐採・植替え等の加速化、②スギ材需要の拡大、③花粉の少ない苗木の生産拡大、④林業の生産性向上及び労働力の確保に取り組み、10年後には、花粉の発生源となるスギ人工林を約2割減少させることを目指して集中的に推進することとしています。

森林資源の利用加速！

このような中、県では森林資源の循環利用を目指し、伐採後には成長が早く、強度もあって、花粉が少ないサガンズギなどを植林し、適切な管理を推進することとしています。このため、森林所有者等が行う植林と下刈に係る経費に対し、造林補助金に加え、佐賀県森林環境税を活用した県独自の支援を行っています。



植林

補助率：90%



下刈

補助率：100%

注意1) 下刈の補助は、本事業で植林を実施した場合に適用します。

注意2) 補助金は、作業にかかる経費を県が標準的に定め、補助率を乗じて補助します。

注意3) 作業内容や作業場所などの現場条件によっては、負担が伴う場合もあります。

(林業課 造林間伐担当 下野智昭)



はじめに

佐賀県治山林道協会では、治山林道工事の施工技術の向上、林道維持管理の適正化、木材利用の促進を図ることを目的として、毎年、本コンクールを実施されています。

今年度は、令和5年5月29日～31日の3日間の日程で、各農林事務所から推薦された「品質、外見、施工管理等において優秀な工事等」12件（治山工事部門5件、林道維持管理部門4件、林道工事部門3件）について、現地及び書類で審査を行いました。なお、今年度は治山木材利用工事、林道木材利用工事の推薦はありませんでした。

また、それぞれの部門で最優秀賞に選定された場合は、県協会から全国コンクールに推薦されています。

治山工事部門（5件）

治山工事部門では、右表の5件を審査しましたが、5件中4件が平成30年及び令和2年並びに令和3年の災害箇所、着実に復旧が進んでいると感じたところです。主な工種としては、谷止工や流路工などの溪間工事、土留工や簡易法枠工などの山腹工事を審査しました。

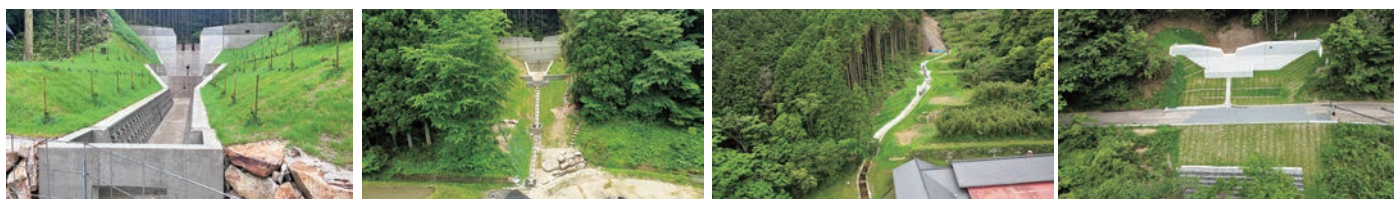
最優秀賞は、令和3年の豪雨により被災した山腹の復旧工事として、唐津市湊町清水地区において、株式会社福井建設様が施工されました土留工、簡易法枠工、水路工に決定しました。

この現場は、狭隘な地形で市道の直上に位置し、施工が困難な箇所であったことから、資材や機械の搬入に大変苦労されたと思います。しかし、主任技術者が工事内容を十分に理解され、施工管理や工程管理など工事全般にわたり対応が優れており、仕上がりの状況も良好で、出来形及び品質管理の管理値も規格値に対して余裕がありバラツキも小さく、素晴らしいものでした。これらが今回、高く評価され、最優秀賞に決定しました。

施工者	工事名	施工箇所	主な工種
野中建設株式会社	中岳地区 復旧治山事業工事	佐賀市	床固工1個 流路工18.4m
三愛オブリガス三神株式会社	一番ヶ瀬地区 復旧治山事業工事	神埼市	谷止工1個 水路工35.0m
株式会社福井建設	清水地区 災害関連緊急治山事業工事	唐津市	土留工(3個)50m 簡易法枠工524.1㎡ 水路工55.3m 他
株式会社西有田土木	開田地区 予防治山事業工事	西松浦郡有田町	流路工91.3m
有限会社仲田建設	赤穂山地区 溪流等県土保全緊急対策事業工事	武雄市	治山ダム(高上)1個 水路工14m【附帯工】



治山工事部門 最優秀賞（知事賞）清水地区 【株式会社福井建設】



治山工事部門 優秀賞（協会長賞）

（左から）中岳地区【野中建設株式会社】、一番ヶ瀬地区【三愛オブリガス三神株式会社】、開田地区【株式会社西有田土木】、赤穂山地区【有限会社仲田建設】

林道維持管理部門（4件）

林道維持管理部門では、右表の4件を審査しましたが、審査当日に搬出間伐されている路線や、路線全ての橋梁の長寿命化対策が完了している路線など、適切な維持管理の状況を確認することができました。

最優秀賞は、嬉野市において管理されている上不動線に決定しました。嬉野市においては、非常勤職員を雇用し、随時巡回を行いながら林道の状況把握に努められ、除草、支障木撤去、側溝及び路面清掃により、通行車両の安全確保に努められてい

ます。また、重作業の場合は、業者に委託して路面補修などの管理を適宜行われています。このようなことから、この路線を維持管理している嬉野市を、今回、最優秀賞に決定しました。



**林道維持管理部門
優秀賞（協会長賞）**

（左上） 鷹の羽藤瀬線 【佐賀市】
（右上） 一の坂・河内線 【基山町】
（左下） 岩越・八幡元線 【有田町】

管理者	路線名	審査対象延長	幅員
佐賀市	鷹の羽藤瀬線	2,295m	4.0m
基山町	一の坂・河内線	3,023m	4.0m
有田町	岩越・八幡元線	2,900m	4.0m
嬉野市	上不動線	4,845m	4.0m



林道維持管理部門 最優秀賞（知事賞）上不動線 【嬉野市】

林道工事部門（3件）

林道工事部門では、右表の3件を審査しました。

最優秀賞は、伊万里市東山代町において、株式会社吉光建設様が施工されました、森林管理道二里・下分線（3・4工区）に決定しました。

この現場では、管理技術者が工事内容を十分に理解され、切土勾配や下層路盤厚等の変更やかご枠工の追加など、施工内容の変化に的確に対応しながら適切に工程管理をされており、全体的な仕上がりが優れていました。また、施工管理も計画どおりに実施され、出来形についても規格値を満足している点など施工管理全体が優れていたことが高く評価されました。

施工者	路線・工事名	施工箇所	工事内容
成和建設株式会社	あせび線 林業専用道整備事業工事	唐津市	新設 100m 路面工 120m (全幅3.5m)
株式会社吉光建設	二里・下分線（3・4工区） 道整備交付金事業工事	伊万里市	新設 760m 舗装 117m (全幅4.0m)
副島建設株式会社	角の内線（2工区） 森林環境保全整備事業工事	藤津郡 太良町	新設 135m 路面工 32m (全幅3.0m)



林道工事部門 優秀賞（協会長賞）

（左） あせび線 【成和建設株式会社】
（右） 角の内線（2工区） 【副島建設株式会社】



林道工事部門 最優秀賞（知事賞）二里・下分線（3・4工区）
【株式会社吉光建設】

おわりに

今回のコンクールで審査した工事等につきましては、

いずれも他の工事の模範となる立派な出来栄で、完成までの現場管理も優れていました。今後とも、本コンクール等を通じて、治山及び林道工事の関係者の皆様方の技術の向上、県産木材の利用推進、さらには、林道の適切な維持管理が図られますことを祈念します。

（森林整備課 技術監 武田経孝）



相談窓口開設

令和3年10月「公共建築物における木材利用の促進に関する法律（H22）」が改正され、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されました。

建築物における木材利用促進の意義に「脱炭素社会の実現」が位置づけられたこと、また、木材利用促進の対象を公共建築物から「民間建築物を含む建築物一般」に拡大されました。

これにより、公共建築物だけでなく、これまで木材の利用が低位だった非住宅の建築物や中高層建築物を含め建築物全体に木材利用を促進していくことになりました。

木材利用促進法改正により木材利用は民間建築物まで拡大

令和4年7月に建築士、木材供給者等からなる「さがの木の建築推進協議会」が設立され、この度、本協議会の活動の一つである「木造・木質化の相談窓口」が（一社）佐賀県建築士会のホームページ内に開設されました。

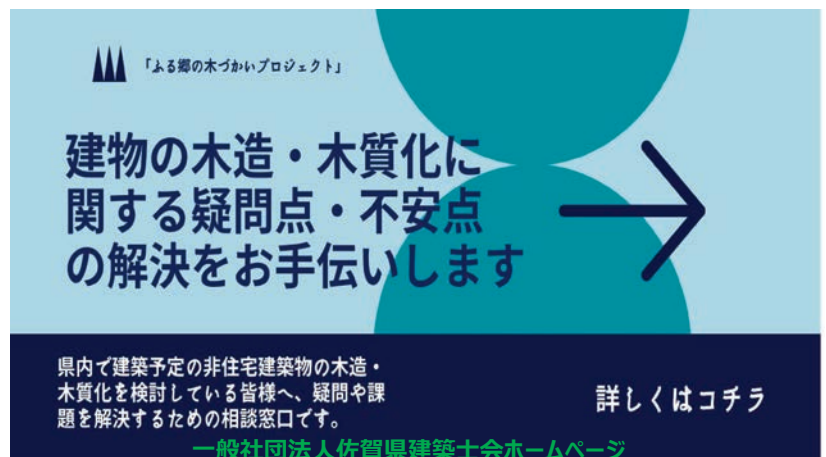
相談窓口は、店舗や保育所など、住宅以外の建築物の木造・木質化を検討している施主や建築士などからの相談を受け付けます。

「木造で建物をつくりたいが、他の構造と比べてコスト面はどうだろうか・・・」、「木造建築に詳しい設計士さんを紹介してほしい・・・」、「木造で建物をつくりたいが、県産木材をどうやって調達すればいいのだろうか・・・」などの質問にお答えします。

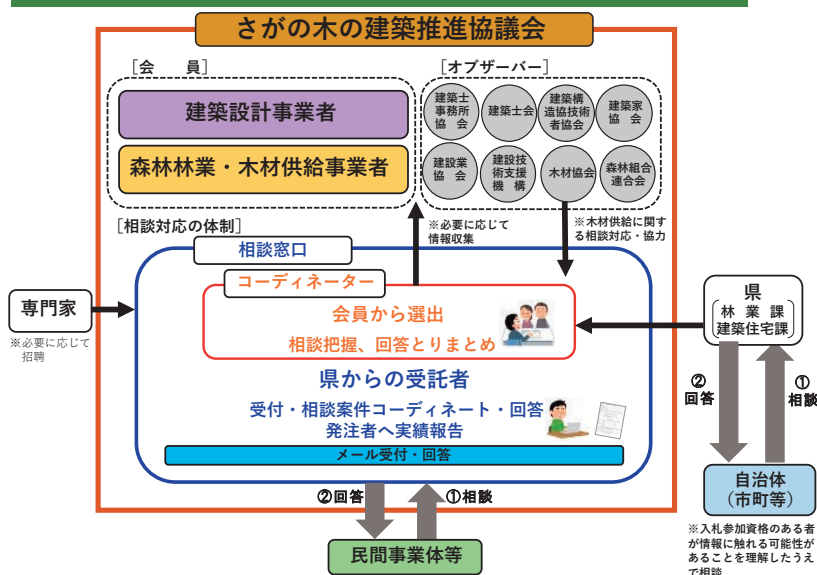
窓口で解決できない相談は、木造建築の設計や施工などの専門的な知識や経験を持つコーディネーターが訪問して相談対応します。

お申込みは、（一社）佐賀県建築士会のホームページから可能です。

この相談窓口の開設により、県内に多くの木造・木質化施設が建設されることを期待しております。



木造・木質化相談対応の体制



木造・木質化は「さがの木」で出来ます！

木造化

木造は社会貢献！
企業の価値を高めます！

事業用建築物の建築を検討されている皆さまが、「持続可能な木材の利用」＝「木造建築物」を選択することによって、グローバルトレンドを掴みえた企業姿勢を打ち出すことができ、世界的に深刻な地球温暖化防止等の社会貢献に努めることができます。

木質化

木の温もりや優しさで
好感度や満足度がアップ！

人の手に触れ、見える部分に木材を使用することで、施設利用者に木材利用のメッセージを伝えます。木材の特性である柔らかさや温かさを活かし、遊材場所に木を使うことで好感度や満足度もアップ！木材に囲まれた空間がくつろぎや健康増進の効果をもたらします。

（林業課 林産担当 古賀保匡）



21世紀県民の森が「レイクサイド北山」としてリニューアル

OPEN-AIR 佐賀の一環として、令和4年度から、美しい森と湖が広がる北山湖周辺エリアの「21世紀県民の森」と「北山キャンプ場」の一体的なリニューアル整備を進めてきました。

21世紀県民の森では、全長111mのローラー滑り台「北山モンスターⅢ(スリー)」をはじめ、草スキーなど自由に遊べる芝生広場「Play Ground」を整備したほか、ウェルカムセンターのウッドテラス拡張、サイクリングロード「ROUTE(ルート)H」沿いにはウッドデッキを備えたビュースポット整備などを行いました。ウッドデッキ・テラスには、もちろん県産木材を使用。また、利用者が快適に過ごせるようWi-Fi環境を整備しました。



7月22日には、10月の北山キャンプ場オープンに先駆けて、レイクサイド北山リニューアルオープンを記念したセレモニーを行い、山口知事と地元の小学生や緑の少年団員らが、新しいローラー滑り台を体験しました。

北の玄関口として新たな魅力発信

今回のリニューアルの目玉は、何ととっても北部九州最長111mの長さを誇るローラー滑り台「北山モンスターⅢ(スリー)」。森の中を通り抜け、風を感じながら、湖に向かって滑り下りれば、気分爽快です。時間にして約1分！また、ウェルカムセンターで自転車をレンタルし、湖を一周する全長約6kmのサイクリングロード「ROUTE(ルート)H」でサイクリングを楽しんだり、湖畔ポートやBBQのほか、フォレストラボでの木の実や葉っぱを使ったクラフト体験など、従来からの楽しみ方も健在です。



楽しさモンスター級!!!北山モンスターⅢ

10月には、「北山キャンプ場」が全面リニューアルし、いよいよ「レイクサイド北山」がグランドオープン予定。家族連れに嬉しいオートサイトのほか、ペット同伴や直火OKのエリアなど多彩なバリエーションをもった全く新しいキャンプ場が誕生します。

「佐賀県の北の玄関口」である北山湖周辺エリア「レイクサイド北山」を、県内周遊の入口・新しいアクティビティスポットとして、県内外の方へPRを行ってまいります。ぜひ、生まれ変わった「レイクサイド北山」で北山の自然を満喫してください！

(森林整備課 森川海人プロジェクト推進担当 園田恵)



業務の効率化を目指した森林内の遠隔臨場の実証

概要

令和5年7月25日、多久市北多久町及び佐賀市富士町の森林内において、治山・林道工事や県営林の下刈り作業の現場で、業務の効率化を図るため、遠隔臨場（ネットワークカメラ等を活用し現場に行かず離れた場所から確認）の実証を行いました。

実証の内容

通信環境の悪い山間地において、「※衛星ブロードバンドを活用した可搬式基地局（Starlink）」を活用し、工事担当職員が現場レポートした内容を事務所内の担当係長へ報告し、その内容を担当係長のパソコン画面で内容を確認してもらいました。また、現場レポートの資材には、「※360°映像双方型ライブ配信システムとカメラ」も同時に活用して確認しました。

※「衛星ブロードバンドを活用した可搬型基地局（アンテナ）・スターリンク（Starlink）」とは、アメリカ合衆国の民間企業スペースX社が運用している高速通信が可能な低軌道衛星を活用した通信サービス。（KDDI株式会社のインターネットサービス）

※360°映像双方型ライブ配信システムとは、建設現場の様子をRICOH360°カメラで配信し、事務所側ではブラウザ上で見たい画角を選択可能にする。（株式会社リコーの開発システム）



治山工事現場状況（多久市）



現場近くに設置した機材



林道工事現場状況（多久市）

実証の結果

- 現場によっては、設置したアンテナ（Starlink）の北側に樹木等の遮蔽物があることで、通信接続が途切れがちであったため、接続から通信環境の確認・安定するまでの時間設定（30分～1時間）を考慮する必要があると実感しました。
- 360°映像双方型ライブ配信システムについては、現場の様子を360°全周動画で伝えることができました。その際、事務所内で対応した職員の意見では「自分が見たい場所をパソコンマウスで移動しながら確認できた」、「画像も綺麗で見易かった」などの意見がありました。
- ドローン測量の実証も併せて行った結果、通信環境が改善することで測量座標や写真等の精度が向上することが把握できました。（株式会社アイテムや筒井測量設計株式会社の協力）

今後、森林内の通信環境の改善が進むことで、労働の安全性や作業効率が向上するとともに、現場の確認作業もWEB等のオンラインが可能となり、業務の効率化につながるものと実感しました。

今回の実証に御協力いただいた企業、団体の皆様、ありがとうございました。

協力会社等（順不同）KDDI株式会社、リコージャパン株式会社佐賀支社、株式会社アイテム、株式会社丸廣建設池上建設有限会社、筒井測量設計株式会社、富士大和森林組合

（佐賀中部農林事務所 林務課 普及担当 福田 寿春）



Ottelaさんと一緒に森林教室をしました

きっかけは一本の電話から

ある日、Ottela(オツテラ)の副代表の方から電話がかかってきました。「子どもたちに森林のことを学べる機会を設けたいので協力していただけないでしょうか。太良町森林組合のホームページを見て、近くにこんな素晴らしい山づくりに取り組んでおられることを初めて知りました。ぜひお願いします。」

後日、副代表の方と直接御会いして話を伺い、開催協力について快諾し、8月1日の午後、多良岳200年の森でOttela(オツテラ)さんと一緒に森林教室を行いました。

ちなみに、Ottela(オツテラ)とは、鹿島市納富分にあるお寺の中にある「ことじ保育園」の一角を借り、子育て世代(保育園児～小学生とその親御さんを対象)のサポートを行うために設立した任意団体です。

※名前の由来：お寺→Ottela(オツテラ)

子育て世代のサポートに関する様々なイベントを企画・運営される中で、今回のイベントは、「forest project」と銘打って、「体験(森林教室)・整理(カードゲーム)・伝える(体験映像の共有)」の3項目で構成されています。



みんなで多良岳200年の森を散策



丸太切り「めっちゃ楽しい！」

大いに盛り上がった森林体験

当日はうだるような暑さの中、多良岳200年の森記念碑の前に子ども10人、大人4人が集合しました。最初に多良岳200年の森の概要を説明し、その後、林内散策をしました。コンクリート舗装の駐車場より林内が涼しいことを体感し、また、木の葉っぱの香りを楽しみました。その後は、木のベンチに座って「森のお話」をして森林を守り育てる意味について理解を深めました。

次に鋸で丸太を切る体験を行いました。鋸を扱うのは初めての子ばかりでしたが、すぐに慣れて何度もチャレンジしていました。切った丸太の輪切りはお土産として持ち帰ってもらいました。ちなみに、今回使用した丸太は、



チェーンソー「うるさ〜い。でもスゲ〜ッ！」



おみやげ、いっぱいあるね。

太良町森林組合の協力でヒノキ間伐材の端材を提供していただきました。

木を切る代表的な機械としてチェーンソーを紹介し、林業普及指導員による操作実演をしました。全員、チェーンソーを間近に見るは初めてで、甲高いエンジン音と切断スピードに驚きと感動を隠せないようでした。

子ども達はこのような体験は初めてということで、興味津々な眼差しと終始笑い声が森の中に響いていました。

最後は、親御さんと一緒に意見交換を行いました。「ウッドショックって何だったの?」、「このような体験会は他ではやってないの?」など、問題意識を掻き立てる話題から、「ヒノキの輪切りをお風呂に入れて香りを楽しみたい」など和気あいあいと話ができました。

森林・林業に関し様々な課題がありますが、今後も森林環境保全の意識の醸成に繋がる活動(森林教室)も引き続き行っていきます。

(杵藤農林事務所 林務課 普及担当 小杉茂)



サガンスギの採穂園を拡大造成

サガンスギの生産状況

サガンスギは、成長が早く、強度があり、花粉も少ない3拍子揃った第2世代のスギ精英樹です。サガンスギの普及に当たっては、その優れたクローン特性を確実に活かすため、挿し木苗による普及を進めています。また、苗木生産とその利用は佐賀県内に限定し、普及を進めています。

佐賀県林業試験場では、場内および大町町に採穂園を造成し、佐賀県山林種苗緑化協同組合に挿し木苗を作るための穂木を供給しています。令和3年の春から穂木の供給を開始し、現在、県内で、事業者も含め、約10者の生産者が、サガンスギの苗木づくりに取り組まれており、令和5年の春植えでは、約1万本の苗木が生産されています。

苗木の増産に向け採穂用の母樹を追加植栽

県内では、近年、年間約10万本の従来スギの苗木が生産、利用されています。今後、サガンスギの苗木を増産し、従来スギをサガンスギに置き換えていくためには、サガンスギの採穂園を拡大造成し、採穂用の母樹を増やしていくことが必要です。

このため、佐賀県林業試験場では、近年、苗木の需要動向から利用が少なくなった場内のヒノキ採種園の一部や大町町のアカマツ採種園の母樹を伐採し、令和5年3月に、サガンスギ採穂園を拡大造成しました。

サガンスギ母樹の植栽に当たっては、これまで長年にわたり、ヒノキやアカマツの実生苗の種子生産に大きな役割を果たしてきた母樹に感謝しつつ、これからの再造林でサガンスギの利用が進み、林業の振興につながることを期待しながら、職員の手で1本1本、丁寧に植え付けました。

令和4年度に、採穂園を拡大造成し、追加植栽した、サガンスギの母樹は、将来の追加候補クローンも含めて約1,900本になります。これらの追加植栽母樹が採穂可能となる大きさに育つまで、5年程の期間が必要となります。



拡大造成した場内のサガンスギ採穂園（令和5年3月10日）



大町採穂園にて母樹の追加植栽を終えた林試職員（令和5年3月16日）

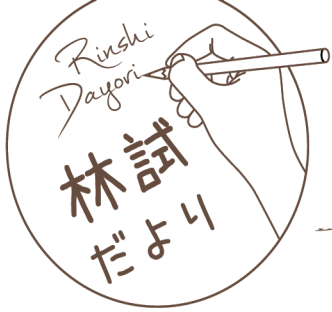
また、優良な穂木の安定生産のためには、毎年、計画的な下刈や病害虫防除、整枝剪定などの作業が必要となります。

現在、下刈については、委託により森林組合の方に作業を担っていただいております。

また、病害虫防除や整枝剪定については、直営により林試の技術系会計年度任用職員さんに対応していただいております。

今後とも、サガンスギ苗木の増産に向けて、引き続き、関係者のご協力もいただきながら、採穂園を適切に管理し、サガンスギの普及に努めていきたいと思っております。

（林業試験場 普及指導課 馬場信貴）



SAGA ものすごフェスタ 9 に出展

はじめに

県では、県民の皆様に佐賀のものづくりの歴史や伝統を知ってもらうとともに、ものづくりの楽しさを体験してもらうため、「SAGA ものすごフェスタ」を開催しています。当イベントには、県内の企業・団体等約 100 社・団体が参加しており、県の 8 試験研究機関からも参加しています。今年度は SAGA サンライズパークが完成したことに伴い、8 月 19 日（土）、20 日（日）の 2 日間、SAGA アリーナにおいて開催されました。なお、林業試験場は初日の 19 日（土）に出展しました。

出展内容

今回は、サガンスギに関する内容をメインに出展しました。出荷時と出荷から 1 年半後のサガンスギの苗木やサガンスギと従来品種のスギの成長量の違いがわかる約 30 年生の樹幹解析用の円盤を展示しました。また、サガンスギと従来品種のスギの板を 2 つ並べて来場者の方に乗っていただくことで、従来品種のスギよりサガンスギの木材強度が高いことを体感してもらいました。さらに、来場者の方々にサガンスギのことをより知って楽しんでもらうため、サガンスギや森林・林業に関するクイズを作成して配布しました。クイズには、サガンスギの 3 つの特徴である「成長が早いこと」、「木材強度が高いこと」、「花粉の量が少ないこと」などをはじめ、サガンスギの苗木の生産方法や林業試験場が無花粉のサガンスギの開発に取り組んでいることなどを盛り込みました。林業試験場ブースに展示したパネルにクイズの答えを掲載していたので、クイズに参加された皆さんは、パネルを食い入るように見ながら答えを記入していました。また、クイズに正解した方には、抽選でサガンスギの板で作った鍋敷きや林業試験場で栽培試験を行った乾燥アラゲキクラゲ、サガンスギのステッカー、森川海人くんの缶バッジなどを進呈しました。

林業試験場ブースには約 250 名の来場があり、盛会のうちにイベントが終了しました。



サガンスギと従来品種のスギの板に乗って強さの違いを体感



クイズの答えを求めてパネルの前は凄い人集り



クイズに正解した方の抽選を行う様子と景品の数々



おわりに

今回のイベントを通して、これまでサガンスギのことを知らなかった方々に周知できたことで、林業試験場がどのような試験研究に取り組んでいるのかということを知っていただくことができたのではないかと感じています。

今後もこのような機会を通じて、林業試験場の試験研究の取組等を周知し、県民の皆様の森林・林業に対する理解の醸成を深めていただくことにつなげていきたいと考えています。

(林業試験場 研究開発担当 山浦好孝)

表彰受賞者のお知らせ

◆ 令和4年度 全国山林苗畑品評会

全国山林種苗品評会は、苗木生産技術が高く、経営の合理化、苗畑管理の創意工夫などに優れた苗木生産者を、全国山林種苗協同組合が表彰するものです。

この度、佐賀県から推薦していた唐津市の江口登司氏（令和4年度佐賀県山林苗畑品評会における知事賞受賞者）が、林野庁長官賞を受賞されました。おめでとうございます！

（写真は、県知事賞受賞時のものです。）



◆ 令和4年度 緑化功労者表彰

緑化功労者表彰は、国土緑化運動に永年にわたって貢献され、その功績が顕著であった方を、公益社団法人国土緑化推進機構が表彰するものです。

この度、佐賀県から推薦していた佐賀市の山口和行氏（第66回佐賀県森林・林業・緑化功労者等表彰における緑化功労者[個人の部]受賞者）が、国土緑化推進機構理事長賞を受賞されました。おめでとうございます！

◆ 第35回森林レクリエーション地域美しの森づくり活動コンクール

森林レクリエーション地域美しの森づくり活動コンクールは、森林レクリエーション地域において積極的に森林整備、利便性、安全性の向上のための施設整備・補修、森林の有効活用によるレクリエーション活動、美化収集などの各活動を行っているボランティア団体等を、一般社団法人全国森林レクリエーション協会が表彰するものです。

この度、佐賀県から推薦していた佐賀市の「金立水曜登山会」が、農林水産大臣賞を受賞されました。おめでとうございます！

行事・イベント情報

- | | | |
|------------------------|---------------|-----------------------|
| ◆「北山キャンプ場」グランドオープン | 令和5年10月20日[金] | レイクサイド北山（佐賀市富士町） |
| ◆九州森林学会（佐賀大会）研究発表会 | 令和5年10月21日[土] | 佐賀大学 本庄キャンパス（佐賀市本庄） |
| ◆森川海人っフェス | 令和5年11月19日[日] | SAGA サンライズパーク（佐賀市日の出） |
| ◆SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023 | 令和5年11月25日[土] | 嘉瀬川河川敷（佐賀市嘉瀬町） |

森林・林業のスペシャルムービーはこちらから！

TO BE FORESTWORKER



SAGA 伐木チャンピオンシップ 2021



<編集後記>

今年の夏も猛暑日が続きましたが、11月25日に開催予定の「SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023」に向け、8月下旬、林業試験場に運営関係者が集まり、炎天下の中、審査方法などの確認が行われました。当日は、是非、会場までお越しください。(N.B)

Follow us!



「みんなで育てよう!さかの森林」
Facebook公式ページはこちら!
気になる方は「いいね!」しよう



<http://www.facebook.com/saganomori>

さかのよか木を応援する
「よかウッド」公式サイトはこちら!



<http://www.yoka-wood.jp>

編集・発行

令和5年10月1日発行
〒840-0212 佐賀市大和町大字池上 3408 番地
佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
TEL : 0952-62-0054

※この冊子は、「佐賀の森の木になる紙」
を使用しています。

